

女性部員一人ひとりが「意識改革」を

全女性連会長就任にあたって

——さっそくですが、第五代全女性連会長に就任されているの抱負をお聞かせください。

日本経済に元気がなく、特に地域の小規模事業者には非常に厳しい時代です。私も商工会女性部としては、女性の社会進出により、その持つパワーを少しでも日本経済の回復の一助になりたいと思っております。

具体的には、全女性連が取り組んでいる「女性の創業等支援助成金」制度がありますが、今年度は二二件の応募がありました。二十一世紀は女性の時代です、女性が起業家になって地域経済を引っ張っていくお手伝いができたらと思っております。

もちろん、まだまだ一人前ではありませんが、歴代会長や諸先輩方をはじめ全国連、全青連、全女性連の皆様方のご指導、ご鞭撻をいただきながら、自分なりに精一杯頑張っていく所存です。

——女性部員としての経歴を教えてください。

昭和五十八年に女性部員の方から誘っていただきました。横のつながりを大事にして、自己研鑽に務めようと思ひ、地元の滋賀県甲賀町商工会女性部に入部しました。

平成八年の部長就任と同時に県女性連の副会長

に就任させていただき、平成十年度から県女性連会長を仰せつかりました。そして、はからずも平成十五年の第三七回通常総会において、全女性連の会長に選任させていただきました。重責を感じるとともに、身に余る思いです。

——家業の方はいかがですか。

私は大阪の豊中市生まれですが、縁あって、また私の勤務先(家電メーカー)の関係で、甲賀町の家電小売店へ嫁いできました。現在は、家電小売と電気工事業、上下水道工事業を営んでいます。大型量販店などとの価格競争面ではハンディがあり、中小小売店だからこそできる「お客様へのキメ細かなサービス」に徹して商売をしています。

しかしながら、電球のような小物はもう完全に売れませんが、どうしても消費者の皆さんは量販店へ行ってしまう。ですから、商売はこちらから運んで設置するクーラーとか大型テレビといった商品が中心になっています。今はやはり、家電小売よりも工事が主流になりつつあります。

それでも、工事の受注のほうも、現状維持を守ることが正直言って厳しい環境です。

——女性部の当面の課題については。

主に三点あるかと思ひます。それは「部員増強」と「全女性連ホームページの活用」、そして「商工会カードの推進」ですね。

——それぞれの課題について、具体的に聞かせください。

なかでも「部員増強」は最大の課題です。組織力の源泉は部員です。当たり前ですが、部員がいればこそ組織が成り立ちます。このままの減少傾向では寂しいですし、何とか歯止めをかけなければならぬと思ひます。そのためには、全国二七四四部の女性部長の皆さんが最低でも「一人減れば一人増やす」という意気込みで、皆さんとともに頑張ってください。

今年九月一日から来年の一月末日までの五ヵ月間を、「部員増強運動期間」と定めています。期間中に一商工会女性部当たり部員二名の増強をお願いしています。これも意識の持ち方で、「減ってしまった。仕方がない」と諦めるのと、「減ったらだめ。何とかしなければ」という考え方で、結果もハッキリと違ってきます。厳しい状況だからこそ、常に前向きに取り組んでいただき、女性部組織を固めていきたいと思ひます。

次の課題は、「全女性連ホームページ」の活用です。他県の女性連や各地





東 洋子 全国商工会女性部連合会会長

の商工会女性部がどのような事業をなさっているか、皆さん、非常に関心を持っています。ぜひホームページをうまく活用して、お互いに情報を発信したり、意見や感想を述べ合ったりして切磋琢磨していくべきです。一から新しい事業はできなくても、真似ごとでもまずやってみる。やってみて継続していく。その中で創意工夫をして一つのものを作り上げていくことが、地域振興や街づくりにつながっていくものと確信しています。

例えば、去る十月七日に鹿児島で開催した第六回女性部全国大会で各ブロック代表者の主張発表を聞いて、先進活動事例のアイデアや苦労をよく勉強し、わからなかったら視察に行くなり、視察の時間がなければ電話をかけるなり、資料を取り寄せてでも学んでいくようにしていただけたら、

さらに女性部が輝いてくるものと思っています。

三番目は、「商工会カードの推進」です。女性部員の身分証明書として一人でも多くの部員の加入をお願いしているところです。カードの加入で女性部に手数料が入って自主財源も強化できますし、また、女性部員のお店がカード利用加盟店に入っていたら、会員の方がカードでショッピングしていただければ、そのお店の売上増にもなります。これは商工会の組織内でお互いに助け合うことであり、ぜひ、商工会カードの理解をお願いしたいと思います。

——新執行部として、今後の全女性連の目指すもの、あるいは一番大事にしたいものは。

一番大事にしたいものは、諸先輩をはじめ、四七都道府県女性連会長さんとのコミュニケーションです。心から思ったことを素直に言えるような雰囲気を作りたいと思います。組織運営の基本は意思疎通からです。

また、できれば全国連と全青連とも自由闊達に意見を交換していきたいと思っています。

——全女性連会長をお引き受けになられて、ご主人のご協力は。

夫は非常に理解してくれていますし、本当に縁の下の力持ちで、私を一所懸命支えてくれています。また、そうでないかと全女性連の会長という大役は引き受けられなかったと思います。

夫の応援を裏切るようなことにならないよう、そして何とか恥をかかないように任期を務めることができたかなと思います。やはり夫婦ってプラス・マイナスだと思えますね。電気もプラスとマイナスがあつて初めて明かりが灯るんですから。も

ちろん、周りも照らすことができるわけです。

——全国の一六万の女性部員に向けて、メッセージをお願いします。

私はいつも手帳の「誓いの言葉」をなぜ唱和するのかなあと考えるんですが、主旨は「地域振興や豊かなまちづくりを目指す」という女性部の普遍の使命、理念であろうと思います。

私は、限りなくこの目標に向かって努力をし続け、努力の中から創意工夫を凝らし、豊かな地域や街づくりに寄与すること、それが地域から信頼される商工会女性部につながっていく。私たち全員が自らこうした「意識改革」をしていただくことそのものが、私の一六万部員へのメッセージです。

全国の商工会女性部二七四四それぞれで、ひとつひとつの努力で何かが生まれてくれば、それが大きな力になって、日本全体も活性化してくる、そのように思います。本当に女性の方はパワーがありますから。

そのためにも女性部部員は、まず事業に参加するということが、非常に大事なことです。忙しいから行けない」じゃなくて、忙しくても、何とか時間を都合して参加してみることです。参加しなければ何がわかるから。参加すれば必ず何か得られるはず。私はそのように常々思っています。

——いろいろ多彩な趣味をお持ちだと伺っておりますが。

自慢できるものは何もありません。小さいときから習っていた日本舞踊と、二〇歳から始めたダンスぐらいが唯一の趣味です。